

社会福祉法人 不動園 のぞみこども園 教育及び保育の内容に関する全体的な計画 令和8年度

法人基本理念(保育理念)		感動そして共感と信頼		保護者や子どもから信頼され、安心して預けられ安全に過ごせる保育園を目指す。個々の子どもの成長を喜ぶ。											
教育及び保育の目標		心身共に健康やかに育ちながら 将来社会の一員として 生活していくための土台となるいろいろな能力や 豊かな人間性が身につくよう 一人ひとりを 受けとめ育む教育・保育を目指す。													
目指す子どもの姿		○心身共に健康な子ども ○思いやりのある子ども ○自分で考えて行動できる子ども ○元氣よく友達と遊ぶ子ども ○興味・関心・意欲を持つ子ども													
教育・保育に置いて育みたい資質能力		①豊かな体験を通じて、感じたり、気づいたり、分かったり、できるようになりする (知識及び技能の基礎) ②気づいた事やできるようになった事などを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする (思考力、判断力、表現力等の基礎) ③心情、意欲、態度が育つ中で、より良い生活を営もうとする (学びの向かう力、人間性)			幼児期の終わりまでに育ってほしい姿		①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり ⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり ⑧数量や図形・標識や文字などへの関心 ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現								
概ね8ヶ月未満		概ね8ヶ月から1歳3ヶ月未満		概ね1歳3ヶ月から2歳未満		概ね2歳		概ね3歳		概ね4歳		概ね5歳		概ね6歳	
発達 の 姿		・座るから歩くへ ・活発な探索行動 ・愛着と人見知り ・言葉の芽生え ・離乳の開始		・一語文から二語文へ ・言葉の習得 ・行動範囲の拡大 ・周囲の人への興味・関心		・二語文から多語文 ・依存と自立 ・基本的な運動機能 ・自己主張		・友だちとの関わり ・ごっこ遊びと社会性の発達 ・言葉の発達 ・運動機能の高まり ・基本的な生活習慣の形成		・身近な環境への関わり ・想像力の広がり ・全身のバランス ・自己主張と他者の受容 ・葛藤の経験		・基本的な生活習慣の確立 ・運動機能の高まり ・目的ある集団行動 ・思考力の芽生え ・仲間の中の1人としての自覚		・思考力と自立心の高まり ・巧みな全身運動 ・自主と協調の態度 ・図形・数量・文字への関心 ・道徳性・規範意識の芽生え	
		0歳		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳		6歳	
保育目標		・特定の保育者との情緒的な絆を深める。		・安心できる保育者との関係の下で、身近な人や身の回りの物に親しみ、自ら関わりを持つとする。		・つもり遊びやごっこ遊びを楽しむ中で、身近な人との関わりを深める。		・保育者や友だちと遊ぶ中で、自分の好きな遊びが見つかり遊びを深める。		・保育者や友だちと一緒に遊びながら繋がりを広げ、集団としての行動ができるようになる。		・生活や遊びの中でつづいての目標に向かい方を合わせて活動し、達成感や充実感をみながら味わう。			
養 護 環 境	生命の保持	生理的欲求の充実を図る		生活リズムの形成を促す		適度な運動と休息の充足を図る		健康的な生活習慣の形成を促す		運動と休息のバランスと調和を図る		健康・安全への意識を高める			
	情緒の安定	応答的な触れ合い 情緒的な絆を形成する		温かなやり取りによる心の安定を図る		自発の育ちを受容し共感する		主体性を育む		自己の肯定と他者の需要の気持ち育む		心身の調和と安定により、自信を持って行動できる			
	健康 伸 び が 伸 び と 育 つ	○生活リズムを安定させ、生理的・依存的な欲求を満たされ生命の保持・生活・情緒の安定をはかる。 ○全身運動(座る・這う・立つ・つたい歩き・一歩歩き)や探索遊び(登る・下りる・くぐる・押す・引っ張る)など発達に応じて自ら身体を動かそうとする意欲を持つ。		○明るく伸び伸びと生活し、情緒の安定を図る。 ○全身運動(歩く・転がる・たかばい、感覚運動(よる・下りる・押す・引く・逃げる・這い)かけの繰り返し)を楽しむ。 ○手指を使った遊び(つまむ・積む・引っ張る・こねる)を充分に楽しむ。		○保育者に見守られる中で簡単な身の回りのことを自分でできるようになる。 ○道具や運動器具などで遊ぶ事を楽しみ、走る・跳ぶ・登る・押す・引っ張るなど、様々な身体運動を獲得していく。 ○自己主張をしっかりと受け止めてもらうことで、少しずつ気持ちを切り替えたり、折り合いをつけたりできるようになる。 ○保育者や友だちのしていることに興味を持ち、同じ遊びを一緒に行動したりすることを楽しむ。		○生活習慣が身につくまで自分で出来ることは自分で進んでしようとする。 ○全身を使って遊びを繰り返す、楽しむことで身のこなしが巧みになっていく。 ○自分の好きな遊びを十分に楽しみながら、友だちと関わりながら遊ぶ楽しさを知る。 ○友だちと同じ遊び(集団遊びなど)に参加し、みんなと一緒にすることを喜ぶ。 ○保育者に介介してもらいながらも、友だちにも同じ思いがあることに気づく。 ○自分が思ったことや感じたことを保育者や友だちに自分なりの言葉で伝える。		○生活や遊びの中の決まりやルールに気づき、基本的な生活習慣や態度を身につける。 ○遊びの経験を広げ、バランスをとる動きが巧みになり、全身を使いさまざまな道具や遊びなどに挑戦して遊ぶ。 ○自他との比較により生まれるさまざまな葛藤を保育者に共感し、受け入れてもらう中で他者を理解し、折り合いをつける力を付けていく。 ○遊びや生活の中で、気の合う友だちと関わりあう中で、仲間意識を育てていく。 ○いろいろな経験を通して生活に必要な言葉を身につける。 ○したこと・見たこと・聞いたこと・感じたこと・考えたことを言葉にする。 ○身近な社会や自然に興味や関心を持ち、発見を楽しんだり考えたりする。		○生活に必要な習慣や態度を身に付け、健康で安全に過ごすと共に生活の流れに見直しを持って行動出来る。 ○全身運動が巧み(～しながら～する)になり、さまざまな運動に意欲的に挑戦できるようになる。 ○友だちと工夫協力して遊びや生活を進めたり、役割を分担しながら目的を達成し、達成感や達成感を感じる。 ○身近な人や地域社会に関わりを深める中で、社会生活のきまりや習慣を身に付ける。 ○生活の中で必要な言葉を身に付け、自分の気持ちを表現するとともに伝える喜びや伝え合う心地よさを味わう。 ○身近な自然に親しみ、季節の変化に興味をもつ。また、動物の世話を通して命あるものの存在に気づき大切にすること。 ○身近な環境や事象に関わり発見したり考えたりする中で、物の性質や数量・文字への感覚を豊かにする。 ○生活の中で、感じたことや気づいたことを豊かにイメージし、音や動きで表現したり、自由に描いたり創ったりする。 ○友だちと一緒に歌ったり、楽器を演奏したりすることを楽しむ。			
		ね ら い ・ 内 容	○受容的・応答的な保育者との関わりを通して、気持ちの通う心地よさを十分に感じ、信頼関係の基礎を築く。 ○受容的な保育者との関わりによって、喃語や言葉が豊かになり、身振りや指さしでも気持ちを伝えようとする。		人間関係 ○保育者に十分に気持ちを受け止められることで、自分の思いや要求を伝えようとする。また、友だちに関心を示す。 言葉 ○簡単なごっこ遊びを保育者に仲立ちしてもらいながら楽しむ。(模倣する、見立てる) ○要求を身振りで指さして伝えようとする中で少しずつ言葉を増やしていく。		表現 ○保育者や友だちのしていることに興味を持ち、同じ遊びを一緒に行動したりすることを楽しむ。 ○見たり触れたり感じたりしたことを言葉で伝えたり、やりとりを楽しんだりする。 ○身近な環境に親しみ、触れ合う中で、様々なものに興味や関心を持つ。 ○生活や様々な体験をすることで、イメージや感覚が豊かになり、つくりあそびや見立て遊び・ごっこ遊びを楽しむ。 ○好きな歌を歌ったり、音の遊びを楽しんだり、好きなリズムに乗って体を動かしたりする。		表現 ○保育者に介介してもらいながらも、友だちにも同じ思いがあることに気づく。 ○自分が思ったことや感じたことを保育者や友だちに自分なりの言葉で伝える。 ○ごっこ遊びの中で、保育者や友だちと一緒に言葉のやりとりや表現しながら遊ぶことを楽しむ。 ○身近な動物や自然に興味を持ち、見たり触れたりすることを楽しむ。 ○さまざまな形遊びや音楽あそび、運動あそびを自分なりに表現することを楽しむ。 ○音楽に合わせていろいろな楽器を鳴らして楽しむ。		表現 ○保育者に介介してもらいながらも、友だちにも同じ思いがあることに気づく。 ○自分が思ったことや感じたことを保育者や友だちに自分なりの言葉で伝える。 ○ごっこ遊びの中で、保育者や友だちと一緒に言葉のやりとりや表現しながら遊ぶことを楽しむ。 ○身近な動物や自然に興味を持ち、見たり触れたりすることを楽しむ。 ○さまざまな形遊びや音楽あそび、運動あそびを自分なりに表現することを楽しむ。 ○音楽に合わせていろいろな楽器を鳴らして楽しむ。				
園の特徴		●月曜～土曜 7時～19時の保育 ●園バスによる園外保育(2歳児・おおよそ隔週、3～5歳児・週1回：行き先 太陽が丘、鴻巣公園、八幡市民スポーツ公園、大吉山、久御山中央公園、市内各地の公園) ●安否式運動遊び ●HANA音楽研究所による音楽あそび													
年齢		0歳		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳		6歳	
食育 (食を営む力の基礎)		・ゆったり落ち着いた雰囲気の中で、食べる喜びを味わう。 ・色々な食べ物を見る・触る・味わうことを楽しみ、自分で食べたいという気持ちを大切にしながら楽しく食べる。		・ゆったりした雰囲気の中で、食べる事を楽しく体験を積み上げる。 ・手づかみになりながらもスプーンを使って自分で食べようとする。 ・咀嚼を促し、よく噛んで食べる習慣を身につけ自分から食べようとする意欲を育む。		・ゆったりした雰囲気の中で、友だちと一緒に楽しく食事をとする。 ・いろいろな食材に触れ、味わいながら関心をもち、スプーンを使って自分で食べようとする。 ・よく噛んで食べる習慣を身につける。		・保育者や友だちと一緒に楽しく食事をとする。 ・身近な食べ物の名前や、色・形・味などに親しみながら、興味や関心をもつ。 ・スプーンを使い、よく噛んで自分で食べる。		・食事の基本的なマナーを身につけ、保育者や友だちと一緒に楽しく食事をとする。 ・野菜の栽培や収穫などの体験を通して興味を深め、成長を楽しみにする。 ・クッキングを通して食材に触れる事で食べる興味や関心を深める。		・健康と食べ物の栄養(3色食品)の関保と食料について興味や関心を持ちつつ、楽しく食事ができる。 ・四季折々の行事食に触れ、その由来を知り、またクッキングを通して食への興味・関心を深める。 ・野菜の栽培や収穫体験などの食育を通じてすべての命を大切にする心を持つ。			
食物アレルギーのある子どもへの対応については、医師の指示のもとに適切に対応する															
発達支援		○配慮を必要とする園児の実態や特徴の把握を行うとともに、個々の指導計画を作成する(3期に分けて計画を立てる)。 ○指導計画に対しての振り返りを各期ごとに行う(あゆみ)。 ○各療育施設や自治市保健推進課、保育支援課と連携し共通認識を持つとともに、その都度、支援計画の見直しをする。 ○常に保護者とはコミュニケーションを図り、支援についての共通理解を行う。 ○就学前には、就学先の学校に、成長や発達について丁寧に繋げる。						家庭との連携 《方法》 ○送迎時の対話 ○連絡帳 ○園だより ○各クラスのドキュメンテーション ○個人懇談会(幼児組) ○クラス懇談会(年2回) ○子育て相談(随時) ○発達相談(随時)							
保 健	保健目標	○園生活のリズムを身につける ○自分の体に興味を持つ ○元氣いっぱい体を動かして遊ぶ ○怪我なく安全に過ごす ○風邪や感染症を予防する ○自身の成長を振り返る						健康支援 ○内科健診・歯科健診(年2回) ○検便検査(年2回) ○身体測定(毎月実施、記録はグラフ化表示) ○発育・発達の状態把握 ○登園時及び保育中の状態把握、また異常が認められた時の適切な対応 ○年1回職員健康診断							
		安全教育		安全対策 事故防止		環境・衛生管理									
家庭との連携		○園と家庭との、日々のコミュニケーションを通し、信頼関係を育む。 ○園々の子どもの発達、家庭環境などの共通理解を通して、子どもの成長の土台となるいろいろな能力や豊かな人間性が育まれるように家庭と協力する。 《方法》 ○送迎時の対話 ○連絡帳 ○園だより ○各クラスのドキュメンテーション ○個人懇談会(幼児組) ○乳児組クラス懇談会(年1回) ○子育て相談(随時) ○発達相談(随時)													
小学校との接続		○教育相談 ○就学に向けての連絡会 ○指導要録の送付 ○1年生授業参観 ○保幼小連絡会													
地域との連携		○自治市保育支援課との連携 ○自治市こども福祉課(家庭相談)及び児童相談所との連携 ○実習生の受け入れ ○中高生の職場体験、インターンシップ受け入れ ○地域防災訓練参加 ○園行事に地域の方招待 ○地域の横断的参加 ○高齢者施設への訪問 ○世代間交流(伝承あそび等)													
子育て支援		○「のぞみひろば」月4回開催時、園あそび(砂・泥んこ・みずあそび等)運動遊び、絵本読み聞かせ、製作等、子どもとの遊び方や関わり方を保育教諭が実践しながら伝える(園庭開放)。 ○子育ての悩みや不安を気軽に話せる場作り(育児相談)。 ○園内行事への案内													
研修計画		○京都式キャリアアップ研修 ○園内研修(運動遊び実技指導・研修 年4回、音楽あそび実技指導 年3回) ○法人内 福祉職員研修 ○法人内スキルアップ支援制度(人事考課) ○新人育成プログラム						自己評価 ○法人施設による適切な施設運営管理の評価 ○年度末の全体総括と次年度への反映 ○スキルアップ支援制度による自己評価・人事考課 ○保育教諭の自己チェックリストの実施。							